

V 効果的な実践例

1 家庭学習のマネジメント・サイクル化の例

実践例 1 「家庭学習計画表」の活用（小学校）

家庭学習計画表		4年	番【 】
6月	学習予定	学習計画	
国語 ・走れ ・メモの取り方をくふうして聞こう ・ローマ字 ・みんなで新聞を作ろう ・(書写) 左右 算数 ・わり算の筆算 ・垂直と平行と四角形 理科 ・電気のはたらき ・暑くなると 社会 ・水はどこから 音楽	1 週 目	(国)「走れ」の漢字練習をする。 (算)ドリルでわり算の筆算練習をす (音)「いろんな木の実」のけんぱん練習をする。	終わったものは線で消す 週末に教師のコメントを記入する みくできました
	2 週 目	(国)「走れ」の意味を調べる。 (算)ドリルでわり算の筆算練習を (理)電気をつくものを調べる。 (図)「アイデアボックス」の設計図を作る。	翌週に取り組むことにしたものは→で示す
	3 週 目	(国)ローマ字の復習をする。 (社)ダムのはたらきをインターネットで調べる。	

教師：月の学習内容を提示する。

児童：自分で週ごとの家庭学習の計画を作成する。



小学生の実態を踏まえ、復習・予習の内容を教師から例示し、取り組み方などについても丁寧に指導しましょう。

【復習内容例】

- ・「間違いノート」の作成

授業やテストで間違った問題や、間違いそうだと思う問題を集めたノート作成する。間違った理由や、次回間違えないようにするためのアドバイスを書きこむ。

【予習内容例】

- ・新出漢字を練習する。(ドリルや教科書を使って筆順を調べ練習する。)
- ・教科書を音読し、掲載されている言葉の意味を辞書で調べる。

「家庭学習計画表」は、自主学习ノートに貼り付けて、毎日提出させる。

週末の朝や帰りの時間に自分の1週間の取り組みを振り返る時間を設けると「やる気」が持続します



実践例 2 「定期テスト」への取り組み（中学校）



「定期テスト」後の振り返りを充実することにより、自らの学習内容の定着度を把握し、家庭学習の内容や取り組み方を改善することができます。

PLAN

【定期テスト前】・目標の設定

・テスト範囲表を活用し、テストに向けた学習計画の作成

DO

【定期テスト前】テストに向けた家庭学習の実行

CHECK

【定期テスト後】「評価票」を活用したテスト結果の分析・評価

3年数学 1学期中間テスト評価票		3年 組 番 氏名			
関心・意欲・態度		数学的思考	技能	知識・理解	
1. 2年 の 復 習	① 忘れ物をしない。	・母線と底面の円の半径の比と、側面のおうぎ形の中心角の関係を、利用して角の大きさの求めることができる (2)	・正負の数や文字式の計算ができる (4) 1 (1) ① ②		
	② 2分前着席、1分前学習に取り組んでいる。	3 (3)	・比例式や連立方程式 1 (2) ①		
	③ 授業に積極的に参加している。(発言・発表)	・垂直二等分線の作図を利用して、円の中心を求めることができる (2)	・等式を変形すること 2 (1)	教師：問題ごとの出題意図を示す	
	④ 板書は必ず書き写している。	3 (4)	・数量の関係から連立方程式を 2 (2)		
	⑤ 自分のポイントをノートに書いている。	・図形の性質を考察し、文字を使って証明することができる (6)	・有理数の y の増加量を求めることができる (2) 2 (3)		
	⑥ 提出物を期日までに提出している。	4	・球の体積を求めることができる (2) 3 (1)		
多 項 式	⑦ 数学の学習を毎日している。(仔細・理解・整理)	・式を考察し、乗法公式を利用した計算をすることができる (4) 8 (1) (2)	・単項式と多項式の乗法・除法の計算ができる (4) 6 (1) (2)	・式の展開について理解している (8) 5 (1) ① アイウ	
	⑧ 「実力アップ問題」を計画的に進めている。	・分配法則や因数分解の公式を利用して多項式の因数分解をすることができる (12) 10 (1) (2) (3) (6)	・式の展開ができる (12) 7 (3) (4) (7) (5) (8)	・多項式の因数分解について理解している (10) 6 (2) アイウエオ	
	⑨ 問題文の情報を自分でやり取りし、見極めるようにしている。	・問題文の例から多項式を関数を利用して因数分解する方法を見出し、問題に答えることができる (4) 11 (2) 関 式	・多項式の因数分解ができる (6) 9 (4) (5) (6)	・基本的な式の展開のしかたを理解している (4) 7 (1) (2)	
	⑩ 配布されたプリントをきちんとファイルに収めている。			・基本的な多項式の因数分解のしかたを理解している (6) 9 (1) (2) (3)	
合計	①～⑥まで ○1つ2点 A20-16 B16-10 C9-0 点	A30-24 B23-15 C14-0 (30) 点	A40-32 B31-20 C19-0 (40) 点	A30-24 B23-15 C14-0 (30) 点	
よくできた内容		できなかった内容	改善方法		

生徒：テスト結果を自己分析して課題を明らかにし、改善方法を考える

ACTION

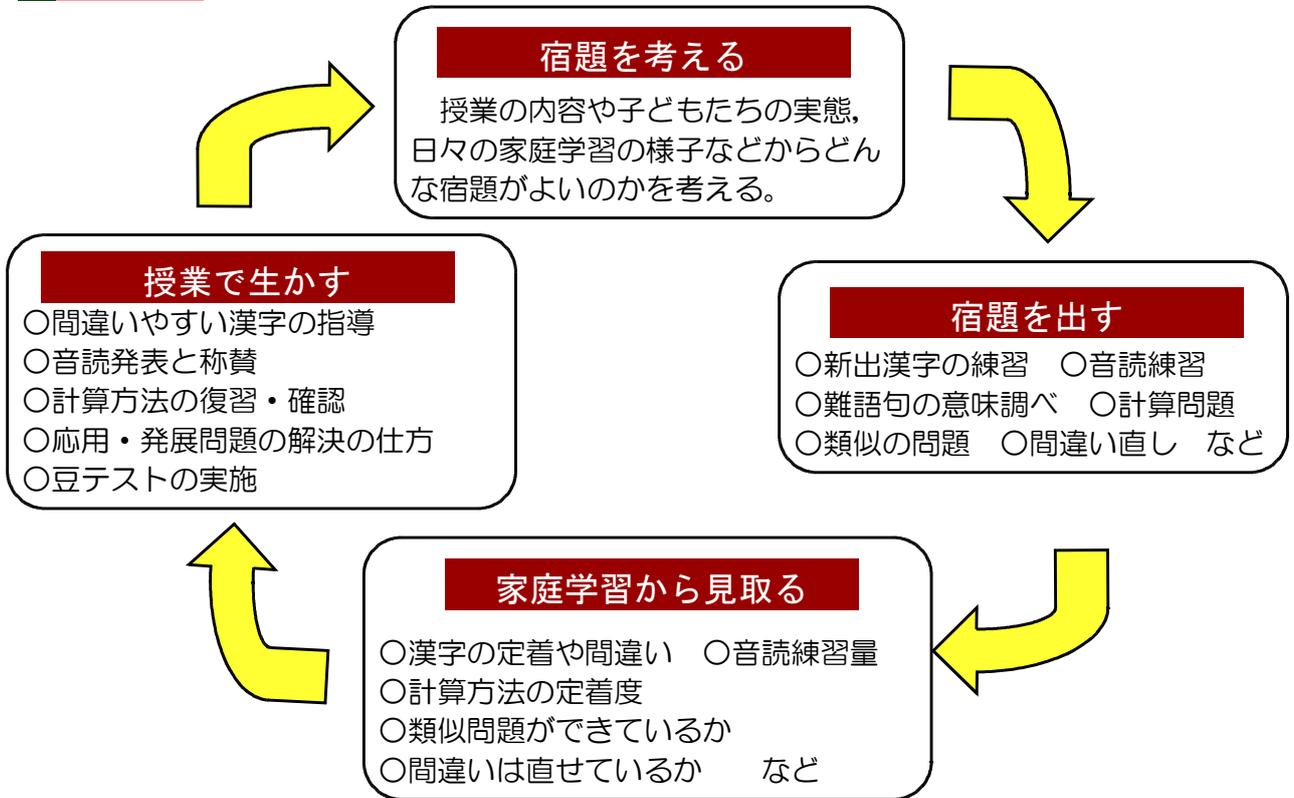
【定期テスト後】・できなかった内容の復習

・次回テストに向けた家庭学習の取り組み



2 授業と家庭学習のサイクル化の例

実践例 1 授業内容とリンクした宿題（小学校）



▶具体的には・・・

新出漢字の学習（授業）→新出漢字の練習（宿題）→宿題の見取りから間違いの多い漢字の指導（授業）→繰り返し練習（宿題）→豆テストの実施（授業）→間違えた問題を重点的に練習（自主学習）

発展・応用問題への取り組み（授業）→類似問題への取り組み（宿題）→宿題の見取りから解決方法の発表場面の確保と称賛（授業）→再度チャレンジ（自主学習）

はじめは宿題として出し、授業と関連を図った指導をとおして自主学習での取り組みへと発展させていきます。



授業とのサイクル化のためには、子どもたちの家庭学習の取り組みを教師が見取ることが大切です。見取りから子どもたちの理解の状況、誤答、頑張りなどを把握して授業での指導やその後の宿題の出し方や内容に生かしていきます。子どもたちにとって、「家庭学習をやってよかった」と思えるような体験を積み重ねることが、家庭学習の習慣化にもつながります。

3 ドリル学習に主体的に取り組ませる工夫の例

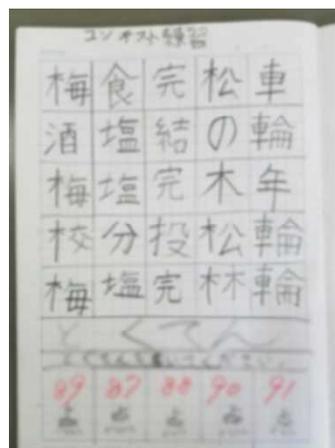


どうしても単調で機械的になりがちなドリル学習ですが、知識・技能の確かな定着のためには欠かせない学習でもあります。子どもたちにも分かりやすい目標を設定することで、主体的な取り組みを促すことができます。

実践例1 「美文字コンテスト」の実施（小学校）

新出漢字を用いて「美文字コンテスト」を行う。「美文字」を意識させることで、子どもたちは、毎日の漢字練習において点画や止め、はね、払いなどを正しく丁寧に書こうと意識するようになる。最後に各自の練習の成果を掲示し、お互いの文字を見合うことで、友達からよさを称賛され、達成感を味わうことができた。

はじめは宿題として漢字練習をさせていたが、回を重ねることで「コンテスト」を意識し自主学习として取り組めるようになった。



実践例2 「豆テスト」の実施（中学校）

① 自主学习ノートを使って漢字・英単語などのテストを自作する。

正解するまで繰り返す

××○(1)かてい	家庭
×○(2)がくしゅう	学習
×○(3)もんだい	問題
○(4)かいとう	解答

問題を書く

答えを書く

ここで折ると何度も問題を使える

② 答え合わせをする。

- 問題番号の先頭にできたときは○、できなかったときには×を付けておく。

③ 間違った漢字・英単語を練習し、再チャレンジする。（できるまで繰り返す）

④ 数日後にもう一度チャレンジし、定着しているかを確認する。

中学生の発達段階として、既にできることや解ける問題を何度もやらせるのではなく、できないところに集中して取り組むように指導します。



4 自主学習への取り組みを促す工夫の例

実践例1 「ぱっちりメニュー」と「わくわくメニュー」(小学校)

家庭学習の手引き

毎日70分間をこえるようにしましょう。(10分間×学年+10分) 6年生

1. かならず宿題をやります。

音読 しせい はっきりとした声 速さ 気持ちをこめて
 漢字 書き順や送りがな 読み仮名 よく見て丸付けし、直して練習する。
 算数 正しく 速く 式や答え(単位をわすれない)をしっかりと書く。
 答え合わせをして、なぜまちがえたのかを書く。
 日記 原こう用紙の使い方 まとまりや段落を意識しましょう。

2. 宿題が終わったら、自主学習。

《ノートのれい》

○月○日
○回目
学習した時間
「めあて」

を書いて始めます。

○月○日○日 0:00~0:00

めあて ~~~~~

① ぱっちり
メニュー

② わくわく
メニュー

ふりかえり
よかった点

かいぜん点

「ふりかえり」
よかった点
かいぜん点
2行くらいの文で
書き、次のめあてに
つなぎます。

① ぱっちりメニュー(国語と算数のふく習)

- 教科書や授業のノートを見てまとめる。
- 教科書の後ろのページやドリルの練習 など

「家庭学習の手引き」に自主学習ノートの使い方や内容の例が示されています。

② わくわくメニュー(得意なこと・興味のあることをのぼす学習)

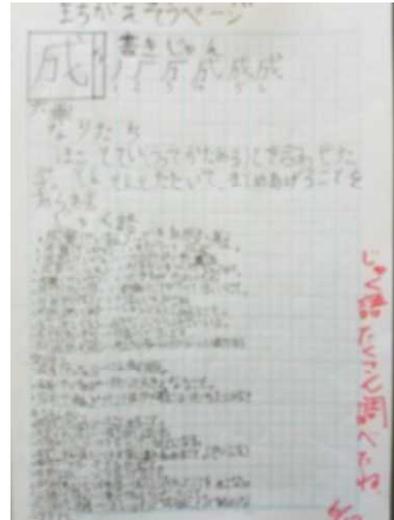
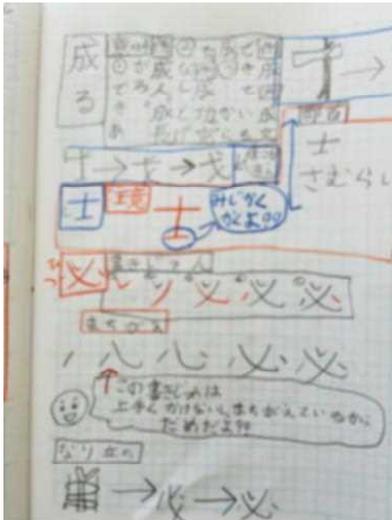
ことば	・漢字の部首調べ ・漢字の問題を作って自分でとく ・意味調べ ・英語やローマ字 ・詩を書く ・四字熟語調べ ・読書、ニュース、新聞記事の感想 ・俳句や短歌づくり ・公式の整理
説明	・算数問題づくり ・理科の実験のまとめ ・料理の作り方まとめ ・買い物のねだん調べ
図	・サインづくり ・おり紙 ・キャラクターづくり ・図形をかく
音	・作曲 ・音楽の感想 ・リズムで暗記
心	・友だちのいいところさがし ・家族紹介 ・クラスの問題のかい決さく
計画	・目標づくり、ふりかえり ・テスト見直し
自然	・動物観察記録 ・星座調べ ・ペット紹介 ・草花調べ ・環境にやさしい取り組み計画 ・生き物の飼い方調べ



- 家で使っている問題集など学習した内容を「家庭学習カード」に記録しましょう。
- 答えを見て丸を付けた後、直したり、なぜまちがえたかを書いたりしましょう。

【ばっちりメニューの例】

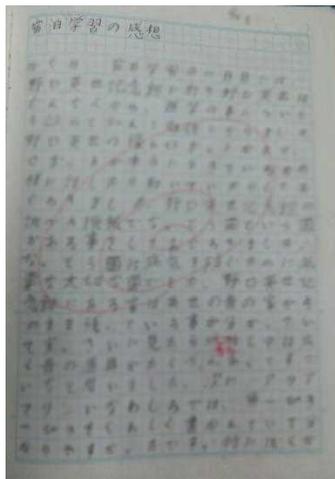
自主学習 1 の内容



テストやドリル学習などにおいて、間違った文字や覚えにくい文字を取り上げ練習しています。自分自身へのアドバイスを吹き出しに書くことで、以後、意識してその文字を書くことができるようになりました。

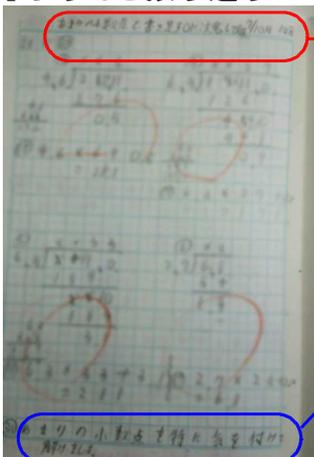
【わくわくメニューの例】

自主学習 2 の内容



行事の感想や、自分が興味を持った事柄について調べ、ノートにまとめています。まとめる際には、写真や図を用いたり、大事なところに色を付けたりと工夫が見られます。

【めあてと振り返りのあるノートの例】



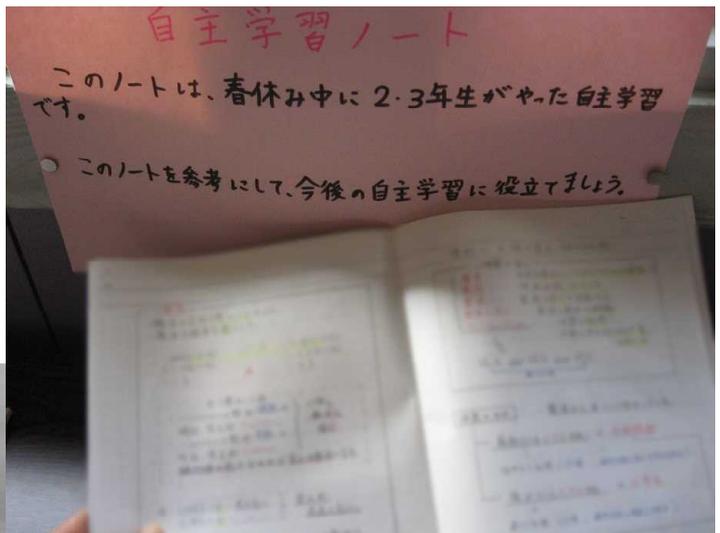
■今日の自主学習の目標や気を付けることを記入する。
「あまりの小数点と書き足す0に注意して解く」

■学習に取り組んだ後にめあてが達成できたかを振り返る。
「あまりの小数点を特に気を付けて解けました」

実践例2 先輩の自主学習ノートに学ぶ（中学校）

新1年生が入学した4月に、家庭学習の進め方の指導と並行して、2・3年生が春休み中に取り組んだ自主学習ノートを展示する。

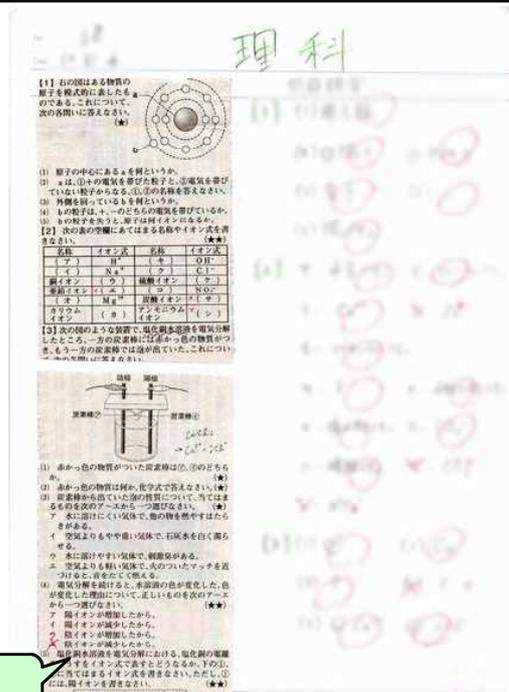
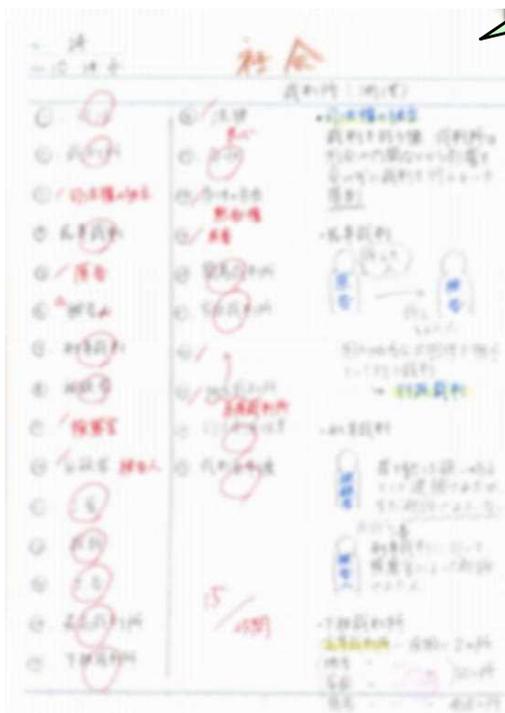
入学したての1年生にとって「中学生としてどのように自主学習を進めればよいのか」先輩の生のノートから学ぶところは大きい。



学習が終了したノートを丸ごと展示することで、学習の積み重ねの大切さを学ぶことができます。特に優れた取り組みは、具体的に紹介します。



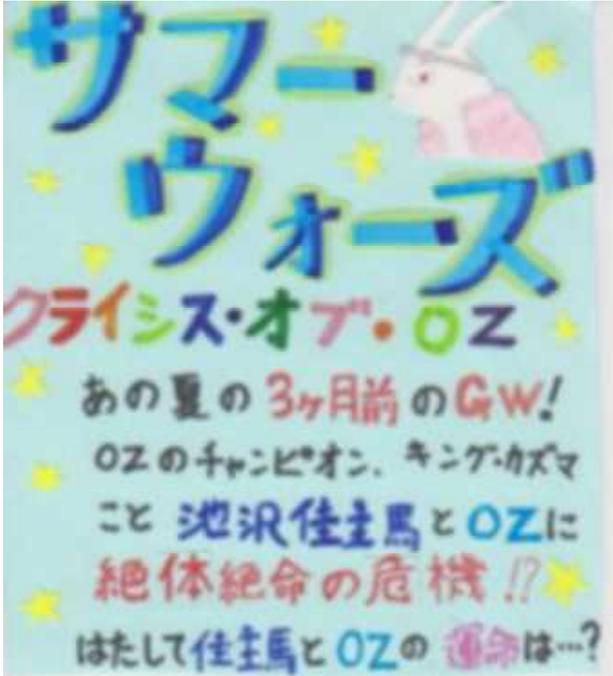
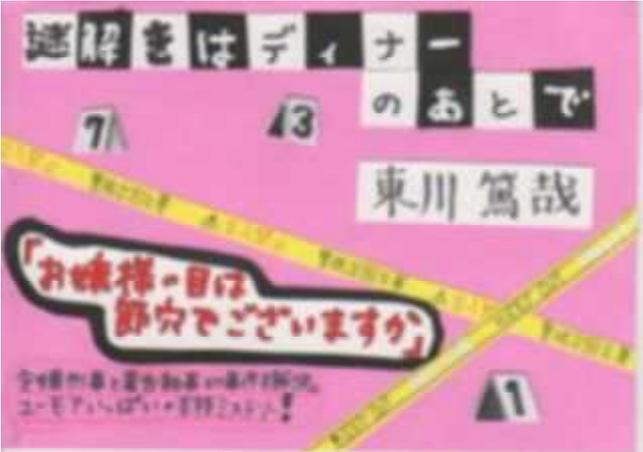
問題練習で間違えた項目の内容を詳しく復習している。



5 活用型の自主学習（自主学習2）の例

実践例1 おすすめの本のポップを作る（中学校）

国語科の学習の発展として、自分の「おすすめの本」を紹介するためのポップを作成するよう促し、できた作品は学校内に掲示した。ポップの作り方については、小学校で学習していることから、自主学習として取り組むことができた。



活用型の自主学習は時間がかかるので、週末や長期休業期間などを利用して取り組ませることが有効です。

実践例2 教科書の内容を新聞にまとめる（中学校）

福島市立〇〇中学校 3年〇組 氏名 〇〇 〇〇

月の起源Q&A新聞

どうして3つの古典的仮説は否定されたのか？

<p>分裂説（親子説）</p> <p>自転速度に難 分裂するほど、高速に自転をしたとは考えられない。</p> <p>Q 「分裂説」では、月は何かからできたと考えられるか？</p> <p>A 地球の一部がちぎれ、月になったと考えられている。</p>	<p>共成説（兄弟説）</p> <p>鉄の少なさ 説明不能 地球との材料物質が違いすぎ、近くで作られたと考えにくい。</p> <p>Q 月に、ある物質が少ないために「兄弟説」が成立しない。何が増えれば成立するか？</p> <p>A 核の中心となる鉄が増えたと成立する。</p>	<p>捕獲説（他人説）</p> <p>地球では捕獲不可能 材料物質の違いや地球の引力で月を捕獲するのは難しいと考えられる。</p> <p>Q なぜ、地球が月を捕獲することは難しいと考えられているのか？</p> <p>A 月は地球の重力では捕獲できないほど大きいから。</p>
--	---	--

この3つの欠点を補う説

巨大衝突説 (3つの古典的仮説を克服)

巨大衝突説のモデル

Q どのような方法で巨大衝突説を検証しているのか？

A コンピュータシミュレーションを使って検証している。

感想

まーと目だけじゃなく、世の中には当り前に思っているけど、実際に調べてみると面白いものがあると思う。明日から月を見るのが楽しみたい。

◇どうして「ほぼ」なのかな？◇

「巨大衝突説」を裏証されたわけではなく、有力な説の一つに過ぎない。そのため、「ほぼ」という言葉を使っている。

教科書の教材を新聞形式に再構成することで、教材の内容についての理解が深まる。新聞の構成については、小学校で学習しているが、生徒の実態によっては大まかな割り付けを提示した方がよい。はじめは、宿題として取り組ませたが、徐々に自主学習で取り組むことができるようになってきた。

新聞作りは、学習の発展として様々な教科で取り組める活動です。例えば、社会科の「歴史人物新聞」、理科の「人体の不思議新聞」など、授業のまとめとしてある程度取り組み、残った部分を家庭学習でまとめさせるといった方法もあります。



平成29年度 福島市学カグレード・アップ事業
 家 庭 学 習 強 化 委 員

所属学校名	職名	氏 名	担当教科等
福島第四小学校	教諭	亀岡 洋	小学校国語科
土湯小学校	教諭	齊藤 雄策	小学校算数科
立子山中学校	教諭	橋本 武志	中学校国語科
福島第三中学校	教諭	三浦 亜紀	中学校数学科
北信中学校	教諭	木村加代子	中学校英語科

《事務局職員》

学校教育課長	土 田 宏
主 幹	糺 田 祐 子
指 導 係 長	丹 治 秀 樹
主任指導主事	嶋 原 理
指 導 主 事	芳賀沼 真由美
指 導 主 事	島 田 祥 司
指 導 主 事	齋 藤 匡 史
指 導 主 事	亀 田 和 弘
指 導 教 諭	須 田 早 苗

家庭学習のスタンダード（福島市版）

平成29年9月 発行

福島市教育委員会